

## 会議議事録（要旨）

		記録者	主幹 小林美貴代			
供覧	部長		課長	補佐・GL	係長	課員
<b>件名</b>	平成25年度第5回龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画に係る有識者会議					
<b>年月日</b>	平成25年10月31日（木）					
<b>時間</b>	午後2時から午後4時					
<b>場所</b>	龍ヶ崎市役所5階全員協議会室					
<b>出席者</b>	<p>&lt;有識者会議委員&gt;            藏田幸三委員長 倉斗綾子副委員長 西尾真治委員 岡田直晃委員            志村高史委員 松尾健治委員 飯田俊明委員 龍崎 隆委員 8名</p> <p>&lt;事務局&gt;            直井政策推進部長            （企画課）            島田企画課長補佐（行政改革推進グループリーダー） 小林主幹 関口主幹            （財政課）            生井係長            （アドバイザー）            PHP総研 佐々木氏</p>					
<b>欠席者</b>	なし					
<b>報告及び議題</b>	（1）「龍ヶ崎市の公共施設の新しいカタチに対する提言（案）」について					
<b>会議録署名人</b>	西尾委員、岡田委員を選出					
<b>傍聴人の数</b>	1名					
<b>情報公開</b>	公開	非公開（一部公開を含む）とする理由		（龍ヶ崎市情報公開条例9条 号該当）		
	部分公開					
非公開	公開が可能となる時期 （可能な範囲で記入）		年 月 日			

発言の内容（文中敬称・敬語略）	
事務局	<p>定刻となりましたので、ただ今より、平成25年度第5回龍ヶ崎市公共施設再編成の行動計画策定に係る有識者会議を開会いたします。</p> <p>なお、当審議会は「龍ヶ崎市審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき、公開となりますのでご協力お願い申し上げます。</p> <p>本日は本会議におきまして、傍聴の申し出がありましたので、これを許可しております。傍聴人に申し上げます。会議中は、静粛に傍聴いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、これより議事の進行につきまして、委員長をお願いいたします。</p>
藏田委員長	<p>本日の会議録署名人の選出をしたいと思いますので、事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>今回の議事録署名人は、名簿掲載順という事で西尾委員と岡田委員をお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。</p>
藏田委員長	<p>それでは、次第に入りまして、議題1、提言書案の審議に入って参りたいと思います。では、事務局の方から提言案の説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>－ 資料に基づき事務局が説明 －</p>
藏田委員長	<p>それでは、議論に入って参りたいと思います。最初に委員の方々から、気付いたところのコメントをいただいた上で進めて参りたいと思いますので、よろしくようお願いいたします。</p> <p>前回骨子を検討して、大まかな項目についてはある程度議論したと思いますけれども、具体的に文章として残っていくのは今回の案ということですので、細かいところも大きなところも含め、ご意見をいただければと思います。</p> <p>では、最初に倉斗副委員長、お願いします。</p>
倉斗副委員長	<p>言い回しの細かい点ですけれども、例えば5ページの「5 行政内部の連携、機能、組織体制強化」のところの中ほど、三つ目の段落の最初の行で「まず、組織に関しては」というところで、「重要性を市民、市内部に示し」とあります。「市民と市内部」の違いがよく分からなかったのですが、「庁内」ということでしょうか。その辺のニュアンスがちょっと分かりにくかったかなと思いました。</p> <p>また、7ページで「公共施設予約システムからデータ収集ができない龍ヶ崎市においては」と書いてありますが、「できない」ということはみんなが知っている話なんでしょうか。後ろの文の「日常業務の一環として」のところ、さらに、「これを集約する仕組みが必要です」というのは、こういったシステムをこれから作るよということの意味しているのですか。</p>
事務局	<p>公共施設の予約システムという大掛かりなものは金額が掛かるので、担当課が日常業務として管理できるような簡単な仕組みが作れないかと考えています。</p>
倉斗副委員長	<p>データ収集をそういったシステムに頼らずに、今までのやり方の延長で対応するということですか。</p>
事務局	<p>紙ベースではなく、エクセルなどで管理できないかと考えています。</p>
倉斗副委員長	<p>記入させる項目を各施設で統一するとか、そういうことですか。</p>
事務局	<p>はい。この文章が分かりづらいので修正します。</p>

<p><b>倉斗副委員長</b></p>	<p>何で収集できないのかなと思ったので、質問させていただきました。</p> <p>今回、学校施設を使っていくということが、特徴的に打ち出されているな、という印象で全体を読ませていただきました。9ページの「第3章 最後に」の六つ目の○(マル)で「学校は『人が育てられる』というソフトの面の意味もある」と書かれています。言い回しのことで個人的な意見ですが、「人が育てられる」というところが引っかかかっていて、「人を育てる場」かなと思います。「学校は『人を育てる場』というソフト面の意味があることを認識し、『地域全体で将来の市民を育てる』という意識をもつ」ということで、「学校を公共の場として、みんなで考えていくんだよ」という前のページとの関連を持たせた方がいいのかなという印象を持ちました。</p> <p>それから、次の○(マル)で「行政内部においても職員一人ひとりが高い意識をもつこと」とありますが、「何についての高い意識か?」ということになるので「全体像を理解すること」とか、「各担当のことだけでなく、市全体としてのビジョンをもっていること」なのかな、と思って読ませていただきました。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>はい、ありがとうございます。それでは、岡田委員。</p>
<p><b>岡田委員</b></p>	<p>まず、当市に関係するところだけ抜き出して、7ページの4行目に、「習志野市は、不要なデータの収集調査を行わず」とありますが、不要かどうかはまだ分からないので、できればこの後ろの括弧を取っていただいて「習志野市は、必要最低限のデータ収集を行う」という形でまとめていただければありがたいです。</p> <p>次に、8ページの4段落目の一番最後で、「秦野市(旧町村)と習志野市(小学校区)」とあるんですけども、習志野市は完全に小学校区単位で再生計画を立てているわけではないので「小学校区を基にしたコミュニティ」としていただければありがたいです。</p> <p>その他、記述でちょっと気になったことと言えば、3ページに戻りまして、2番のタイトルが「市民との情報共有」で内容もそういうことかと思いますが、4行目に「基本方針が市民に周知されること」とあるので、ここも「市民と共有」とかそういう表現にしてはいかがかと考えております。</p> <p>もう一つ、3ページの「3 ファシリティマネジメントと公共施設再編成の一体的な推進」の二つ目の段落のところで「FMは一つのきっかけ」となっておりますけれども、「手段」の方がよろしいかと思います。</p> <p>最後に、12ページの倉斗副委員長の事例のところですが、「戸田市葦原小学校」の「あし」の漢字は芦屋の芦ですよ。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>はい、ありがとうございます。では、西尾委員、お願いします。</p>
<p><b>西尾委員</b></p>	<p>内容についても色々ありますが、それは後で流れの中でお話しすることとして全体的な話や形式について3点あります。</p> <p>まず、一点目はサブタイトルの言葉に違和感を感じまして、一つは「日本の新しい公共施設のトップランナー」というのは、日本語としてどうなのかなと思います。委員長の巻頭文を読むとすんなり腹に落ちるんですが、「新しい公共施設のカタチを示すトップランナー」とか、「新しい日本のモデルとなる公共施設のカタチを実現するトップランナー」とか、こういう言い方であれば分かるんですけども。メインタイトルに「新しいカタチ」という言葉を入れてしまったので、それを後に使えなくなってしまったからだと思います。私の提案ですが、メインタイトルから「新しいカタチ」を取って、メインタイトルは「龍ヶ崎市の公共施設の再編成に対する提言」にしておいて、サブタイトルで「新しいカタチ」を入れていくと少し上手い言い回しになるかなと思います。例えば、「公共施設の新しいカタチの創造に向けて」のようなサブタイトルはいかがでしょう。</p> <p>もう一つ、若干違和感を感じたのが「ファシリティマネジメントの先進地から」</p>

	<p>という言い方です。ファシリティマネジメントというのは、狭く捉えればハードの話なんですけれども、最近はファシリティマネジメントという言葉自体を非常に広く捉えて、ソフトとかプロセスとかを含めたトータルマネジメントとして捉えてきている流れもあります。ですから、そういう風に取り組んでいてファシリティマネジメントという言葉を使っている人にとっては、ちょっと違和感があるかなというところを感じました。これが一点目です。</p> <p>それから二点目は、9ページに「第3章 最後に」とあるんですが、こういう書き方をしていると、この「第3章」がこの会議での議論であり、提言であるように見えてしまいます。実は1章、2章も含めて全てが提言であるはずなのですがこういう形にするのであれば、最後にまとめという形で「1章、2章にも書いてあるけれども、改めてまとめるという形になりました」というような形にした方がいいのかなと思いました。</p> <p>最後の三点目は、参考資料の中に可能ならば、各会議の議事録というか議事要旨を出してはどうでしょうか。現状でもホームページ等で公開はされていないので、議論の内容自体を公開していいのかどうかという議論がまずあるかもしれませんが、さいたま市はマネジメント会議の議事録をかなり手を入れてきちんと作ったものを毎回出して、他の自治体の人がそれを読んで「参考になったよ」というのを割と聞いたりしています。今回の会議が非常に面白いと思うのは、自治体の職員が委員になっていて、それぞれの委員がかなり遠慮なく言っていますので、他の自治体でこれから取り組んでいこうという職員にとっては、非常に参考になるデータだと思います。特に、日本のトップランナーということも掲げられていますので、他の自治体に対する情報提供という意味も込めて、もし可能であれば議事録も後ろに入っていると非常にいい提言書になるのではないかと思います。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>はい、ありがとうございます。志村委員、お願いします。</p>
<p><b>志村委員</b></p>	<p>内容について二点あるんですが。トップランナーは疲れますよ。秦野市がトップランナーというわけではないですけど、先頭集団を走っているとは思いますが風当たりは強いし。昨夜も閉鎖するある施設の説明会を夜7時から9時近くまでやりまして、もうくたくたです。</p> <p>そこで、ふと今日の提言内容と重ね合わせて思ったのは、まず一点目、市民との情報共有です。我々行政側は全市的、将来的視点から「この施設を閉鎖したい」と持っていくのですが、受け取る側はやはり地域的、現在の視点で物を見ます。そこの刷り合わせをどうしていくかに、非常にエネルギーが必要になってきます。「一度説明したのに」と言っても、人が代わるとか自治会にはよくありますし、時間がたつと「そうだったか？」ということもあります。そこで、気付いたのは一時に大量の情報を出して共有したつもりでいても、実は受け取る側からすると、その時には受け入れたかもしれないですが、どんどん薄れていってしまっていて、分からなくなるということもある。ですから、市民との情報の共有の仕方も一時に、大量にというよりも、何回にも分けて少しずつやっていくような、繰り返し、繰り返し何度もやる必要があると先進自治体の事例から学んだみたいなのことも、どっかに入れておいていただければなと思います。せっかく気付いたこと、言ってみれば失敗例ですから、そういうことから学ぶこともきちんと入れていただければ、というのが一つあります。</p> <p>それと二つ目ですね、5ページの「5 行政内部の連携、機能、組織体制強化」の部分です。私は、いろんな自治体の方といろんな場所でお会いします。進まない自治体の典型例は、会うたびに組織が違う、或いは組織は同じでも会う度に人が違うんですね。そういう自治体というのは、やっぱり見ていると全然進まない早くから目を向けて職員を何度も何度もセミナーに送り込んで研修を受けさせて</p>

	<p>いるのに、ちっとも形が現れないということがあります、もしかすると市役所というものの人事システムから外れるようになるかもしれないんですが、やっぱり先進自治体と呼ばれる自治体はどこを見ても長く携わっている、キーマンになる人がいます。ですから、できるだけ長い期間、意欲のある人をきちんと当てられるようなことを、どこかに書き加えていただけないかなと思います。この中からも読み取ろうと思えば読み取れますが、もう少し強く「長い期間、意欲のある人を」というようなところを入れておいていただければ。上手くいっている自治体というのは必ずそういう人間がいるということも、先進地の事例から学んだこととして言えると思います。私はもう6年目になりますが、この分野の先進自治体が集まったところに行くと、担当者は6年目ではまだまだ「ひよっこ」ですからね10年位ザラですから。技術職の方は長くいるというのがありますが、事務職をされている方が長く一つのところで、いわゆる「スペシャリストにする」みたいなやり方を役所はやらないですね。この分野においてはもしかすると、そういうことが必要なかもしれない。それとともに世代間の捉え方のギャップがやっぱりありますので、できるだけ下の世代をじっくり置く様なことも必要かもしれないと思います。</p> <p>最後にこれは言葉について一点ありますが、4ページの「4 学校施設の総量削減や活用」と書いてあるのですが、「総量削減」これですね。やっぱり学校は非常にデリケートな問題ですし、地域の人が一番嫌がりがちの部分だと思います。ですから、こここのところは「学校施設の総量適正化」とか、減らす方向へ向かうのは、色々なものを見ていれば皆良く分かることですので、真っ向から「削減」と出して切り付けるのではなくて、「適正化」とかいう言い方がいいのではないかなと思います。言葉遣いのところはそこだけです。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>はい、ありがとうございます。ぜひ、そういう意味では今回のこの提言書は外からの提言ということもあって、行政の中ではなかなか言い出しづらいことも、できるだけ書き込めるところは書き込んでしまった方がいいのかなと思います。それをどういう形で取捨選択していくのかは、もちろん地域の中での取り組みだと思いますけれども、志村委員が仰ったように、先進自治体の事例なり、自分の体験も含めてできる限り龍ヶ崎市の参考になるような、具体的なものまで書き込む方向で考えたらいいかনাと思っております。</p> <p>そうだとすると、例えば現状把握のことであるとか、人事の組織的なことだとかも事例として、会議の中で示されたものは載せてしまってもよいでしょう。捉え方が全く違うことにならないためにも、事例なり、実名なり、固有名詞なりを入れ込んでおくといいのかなと思いました。</p> <p>市民との情報共有にしても、職員の組織にしてもそうですね。会議の中で具体的に「こうでした」と言われたものであれば、提言書に書き込んだ方がより伝わっていくのではないかなと思いました。</p> <p>皆さんの意見も含めて、少し議論に入っていきます。西尾委員、細かいところの修正について、もう振った方がよろしいですね。はい、どうぞ。</p>
<p><b>西尾委員</b></p>	<p>ここで一番ポイントになっている「新しいカタチの創造」というものが何であって、それが今までとどう変わっていくのかということが、まだ曖昧ではっきり分からないところがあるな、という気がしています。新しい概念を出していくのでこれに向かって職員も市民も一致団結できるような、分かりやすい理念なり説明がないといけないかなと感じます。2ページの下から2段目の段落に「新しいカタチとはハコでも中身でもない、つまりは、機能を市民と共に創っていく」と説明がありますけれども、この「機能を市民と共に創っていく」で上手く伝わるかどうか。もう少しきちんと説明していく必要があるのかなと感じています。</p> <p>私なりの解釈なんですけれど、今までの公共施設の捉え方というのはあくまで</p>

	<p>物としてきたのに対して、上の方にも書いてある通り、手段ではなくて目的が重要であるということが繰り返し書かれています。何のためにやるのか、そこがまず一つのポイントかなと思います。今まで手段重視だったのを目的重視に変えていくということ、その目的には、後ろの方に出てくる「まちづくり」等に絡めて施設のことを捉えていくんだよ、という要素が入るのが今までと違うかなと思います。</p> <p>もう一つは、プロセスの話で「行政だけではなくて、市民と一緒に地域を挙げてやっていくんですよ」ということかなと思います。</p> <p>その目的重視の話と「市民と一緒にやっていくんですよ」というプロセス重視の話、その二つが今までと違う「新しいカタチ」なのかなと、私は解釈しました。それが合っているかどうかは別として、もう少しここは丁寧に、市民が初めて見たとしても分かりやすい説明をしていく必要があるのかなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>事務局では、その辺で議論されていることはございますか。松尾委員、龍崎委員はいかがですか。今の西尾委員のご意見は一つのご指摘かなと思いますけど。</p>
<b>松尾委員</b>	<p>「新しいカタチ」とカタカナで出してしまったものですから、具体的にそれを出して分かりやすくといった時に、非常に分かりづらいと思っています。こういう会話をしているとなんとなく雰囲気が伝わりますが、文字にしようとなかなかニュアンスが伝わりづらいということで、色々議論はしました。まさに西尾委員が仰るような趣旨なんですけれども、それがなかなか上手に表現できていない。ですから、本当は今回の提言では、特にこの「新しいカタチ」というのがポイントだと思うのですが、提言書の分量を見ていただいても分かるように非常に少ない。元々気にはなっているんですけど、じゃあ具体的にはどういう風にしたらもっと職員も市民の皆さんも分かるのか、そこが皆さんのお知恵を拝借ということで、内部的には堂々巡りをしているというのが本当の話です。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ということで、玉は投げ返されてきているんですけども、西尾委員の「目的のところとプロセスのところを入れたら、よりはっきりするのではないか」というご意見も含めてどうですかね。岡田委員や倉斗副委員長や志村委員、何か重ねていくとすればこんな言い方がいいんじゃない、もしくはこんな形もポイントなんじゃないの、みたいなアイデアがあればお願いします。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>そのお答えとして正しいかどうか分からないですけども、字とか言葉というのは、なかなか受け手によって捉え方が違うし、まして「カタチ」という言葉が受け手によって全然異なってきます。理念は絵で整理するとか、もうちょっと文字以外で訴えるものがあつた方がより分かりやすいかなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>そういう意味でいうと、何かの結論が「新しいカタチ」ではなくて、西尾委員がおっしゃったように、そのプロセスが新しいカタチであつて、その部分をより強調していった方がいいのかなと思います。今書かれているように、「ハコでもなく中身でもない」という否定形だと「じゃ何なの？」ということだと思うので、そういったものをポンチ絵で描き、龍ヶ崎市が考える新しいカタチとして市民にも共有しながら、今後の具体的な再配置も取り組んでいきたい、ということでまとめていかれたらという感じがします。</p> <p>志村委員、倉斗副委員長、いかがですか。</p>
<b>志村委員</b>	<p>この「カタチ」という言葉で、もやっとしたままでいいんじゃないかな、というのが、私の意見ですね。数値目標のようなものは、もやっとしていたらいけないわけで、そういったところはきちんと示すのですが。「カタチ」とは何かということが現段階ではっきり、きっちり示せるかというとなかなか難しいものになるでしょうし、少しもやっとしている方が「よしやるぞ」という人にも、夢とか希望が持ちやすいというメリットもあるのかなと思っています。これはもう出来上がったもの</p>

	<p>ではじめて「カタチってこういうものだ」って示せるような気がします。</p> <p>ですから、結果によっては「なんだ、そんなものかよ」ってなるかもしれないし、逆に「これが龍ヶ崎市の目指していた新しいカタチなんだ、すごいね」ってということもあるかもしれません。けれども、今の時点では何となくもやっと「みんな色々知恵を出し合って、意見を寄せ合って、わいのわいの言いながらいいものを作っていきましょうよ」っていうような感覚を受ける、この表記は嫌いではないですね。</p>
<b>藏田委員長</b>	倉斗副委員長、いかがですか。
<b>倉斗副委員長</b>	<p>今の提言の時点で「新しいカタチって、こういうものです」って書けないところがいいところだという気もしています。それを市役所だけではなくて、市民と考えていく。この施設をどうしていくかとその都度考えていくのと、それぞれ「新しいカタチ」になるイメージかなと思っています。過去のしがらみとか、制度とか、縦割りとかを一回なくした時に何が欲しいのか、何が必要なのか。ニーズから生み出されてくるものが「新しいカタチ」になるような受け取り方をしてもらっているのかなと、話を聞いていて思いました。</p> <p>ただ、今日いただいている提言書は絵が無いですけども、他の自治体さんや大学で研究している人が市のビジョンはこんな感じだと引用したりする時に、結構ポンチ絵が一人歩きしていくような感じがあると思います。これだと文章を抜き出していかないといけないので、もし作れるのであれば、それこそ「新しいカタチ」かもしれないんですけど、「龍ヶ崎市の考えている方式というのは、絵で示すってこういうものです」という絵があって、それはいつどこを見ても出てくる状態になるといいだろうな、という印象は受けました。</p>
<b>志村委員</b>	例えば「既成概念に囚われない機能を市民と共に創っていく」とか、「今までのものとは違うんだよ」ということをもうちょっと強調するような書き方をするといいかもしれませんね。
<b>西尾委員</b>	先程来、議論があるように「市民と一緒に創っていく」とか「むしろ市民が自分達でやっていくんだ」というところが大きなポイントになってくるんだという気がしています。その関連でいうと3ページ「2 市民との情報共有」という節があるんですけども、その観点で「情報共有」では弱いなという気がします。情報共有するだけではなくて、共有した上で市民と一緒にやっていく、協働的なことを第2節のところでしっかりと書いておいた方がいいのかなと思います。いわゆる総論賛成、各論反対のことも書かれていて、これはこれで重要なことではあるんですが、これもやっぱり情報を伝えていく「周知」という言葉が使われているように、まだ「伝える」意識が強い気がします。むしろその先で「一緒にやっていくんだ。そのためには情報共有が必要なんだ」というところで、「情報共有」を位置づけるべきかなと思います。
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、ありがとうございます。議論を聞いていて思ったことの一つは、「目的をしっかりと」ということで、「目的にはこれまでのハコというハード面でもソフト面でもなく、新しい別のカタチを創っていく」という方向性を持つことですね。</p> <p>あとは、それに連なるプロセスとして、市民との共有もそうですし、協働もそうですし、庁内での一体的な体制作りもそうですし、必要なデータの整理もそうですし、主要な、必要な要素はいくつか挙がっています。大きな目的と、そのプロセスとしての市民参加、行政参加、リーダーシップもそうかもしれませんね。大きなものが連なってきた、それらが全体としての龍ヶ崎市の「新しいカタチ」を生み出す一つのスタイルだということですね。</p> <p>最終的なアウトプットとして出てくる「新しいカタチがこうだ」というのが別に「新しいカタチ」ではなくて、その大きな目的とその複合的で有機的な仕組みや手</p>

	<p>続きを組み合わせ、<b>「龍ヶ崎市としての新しいカタチを世に問いたい」</b>というまとめにするとよいのかな。イメージ図は、まる二つか三つと、矢印をくっつけて<b>「新しいカタチ」</b>と表現できるようにするというのがよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>先程と同じことを繰り返し申し上げるんですが、<b>「新しいカタチ」</b>を進めるにあたり、<b>「情報共有」「協働」</b>ということを書いたとして、<b>「具体的にどうした方がいいのか」</b>をこれまでの体験も含めて書いておくと、より説得力があるかなという感じがします。これまで色々議論をしてお話していただいた中で、いくつか出てくると思うので、事例として紹介してはどうでしょうか。</p> <p>ご意見いかがでしょうか。<b>「新しいカタチ」</b>以外のところでも関連はするのかなと思うのですが。</p> <p>はい、西尾委員、お願いします。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>先程、志村委員から<b>「新しいカタチというのは、もやっとしていてもいいんだけど、目標はきちんと明確になっていないといけないよ」</b>というお話があったかと思うんですが、<b>「はっきりとした目標があるか」</b>というところが私は気になっているところです。前回の有識者会議でもそういう議論があったように議事録を拝見したんですが、今回の提言書の中にも目標設定が書かれていないなと感じています。</p> <p>特に<b>「PDCAサイクルのチェックが大事だね」</b>と言われていまして、きちんとチェックするためには、目標を明確に設定しておく必要については触れておいた方がいいのではないかなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>前回、どういう風にそれを設定したらいいかの議論はあったような気がするんですが。</p>
<b>事務局</b>	<p>目標設定のところは、その後の議論は進んでおりません。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>秦野市も、習志野市も数値目標を掲げていますよね。そのようなことを参考にしながら、一定の仮定をおいて数字や、場所を入れ替えて目標を設定する方法もあるかと思います。</p> <p>他に、ございますでしょうか。はい、岡田委員。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>数字は後々詰めていけばいいことであって、この段階でないといけないのかなという気がしています。</p> <p>ずっと見ていて、3ページの<b>「1 新しいカタチの創造」</b>の一番後ろに、<b>「市民満足度の高い公共サービスの実現と持続可能な自治体経営の基礎」</b>というのが目的であって、そのための目標が<b>「公共施設再編」</b>であると思います。それをさらに実現していくのがFMであったり、市民との協働であったりだと思うので、その辺はもうちょっとクリアにした方がいいと思います。訳の分からない目的に対して<b>「とりあえず頑張らしましょう」</b>と言っても、人は果たしてそれで付いて来るかどうか分かりません。2ページの<b>「1 新しいカタチの創造」</b>の前、下から2番目の段落で<b>「公共施設再編成は持続可能な地域経営にとっては不可避の取り組み」</b>と書いてあるので、それが目標かと読み取れますが、よく分からないところがあります。目標はしっかりと共有しておかないといけない。曖昧にしておいて旗を振って果たして人がついて来るのかということ、自分の経験からいうと違うと思います。</p> <p>あと、4ページの学校施設の総量削減に数字がありますけれども、そこをグラフにしたりとか、動線区分や管理区分は簡単に絵にしてあげるとより分かりやすくなると思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>そこは確認しておいた方がいいかなと思うんですけど、具体的な目的があってその目的に達成するために具体的な目標があるという位置づけ、それぞれどの言葉が入るのかというのは、多分提言するにしても、確認、共有しておいた方がいい</p>



	<p>いかなと思います。</p> <p>事務局としてはどう考えていますか。いくつか指摘がありましたけど、市民満足の実現であるとか、地域経営であるとか、財政の持続性とか、まちづくり戦略プランというのもあるでしょう。その辺を整理すると、どんな構造になりますか。</p> <p>はい、松尾委員、お願いします。</p>
<b>松尾委員</b>	<p>目的については基本方針で掲げていまして、公共施設を効果的・効率的に活用するというので、「現世代の需要を充足するということと、次世代にとって重要な機能の確保に繋がって持続可能な地域経営の基盤になりますよ」という話をしつつ、「そうするためにも戦略的・計画的かつ組織的に公共施設の更新問題に取り組むことが大切なんです」としました。「公共施設の必要性の高い機能を確保しつつ、財政状況の悪化を回避するというのが、この取り組みの目的です」ということで、目的はここで整理しているんですね。ですから、先程岡田委員が仰ったようなことは、実は目的として掲げられていまして、そこから全て出発しているんですね。</p> <p>具体的な目標になりますと、床面積で3割削減という量は基本方針として出しているんですが、けれども、具体的な削減の仕方だったり、時期だったり、全く整理されていないものですから、それを具体的にどうしていこうかというのが、ここ一年くらいの担当の取り組みというか、悩んできたところですね。それが、実態です。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>そういう意味ではそれほど、ずれていないですね。逆にいうと、目的が分かるように、予め提言の冒頭を書いておいた方がいいかもしれませんね。ここに出てくる取り組みの目標の部分と、そのための具体的な手法として、重要な要素としての再配置についても。</p>
<b>松尾委員</b>	<p>その中でも、次世代とか将来ということをかなり意識しています。今がよければいいということであれば、恐らく何もしなくても何とかかなと思っています。ただ、「今は何とかなっちゃうで済ましちゃうとやっばりまずいから、先々のことを考えて今からやろう」と将来を意識して我々は作りました。皆さん同じかもしれませんが。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ということだそうで、岡田委員、腹に落ちましたか。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>それは、ちゃんと共有しておいた方がいいんじゃないかなと思ったということです。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>それをどういう風にデザインしていくのかという行動計画を立てていくにあたって、「新しいカタチ」というプロセスややり方、スタイルを今回提案させていただく、その提案の中身として具体的な道具立てとして色々なものがあるので、それを築いていくということですね。</p> <p>他に何かご意見ございますでしょうか。志村委員、どうしてもこれだけは言うておかなければというものがあれば。</p>
<b>志村委員</b>	<p>最後の一言ですが、5ページの4の最後のところで「参考にしていただきたい」と表現が急に上から目線みたいな終わり方になり、語尾が変だなと思うので「参考にしていただきたいと思います」とかにしたらいかがでしょう。</p> <p>すみません、これで失礼します。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、ありがとうございます。結構、物言いが揺れていますよね。誰が主体で誰が主語かという、有識者会議が主語で、有識者会議が市民、職員に対して発しているということですね。一応市長への提言ということもあるので、そこは捉えておく必要がありますね。</p> <p>あとはその強さですね、どの程度まで踏み込んで書くのかということです。</p>

	<p>「強く求められます」という要求ベースの考え方なのか、「参考にさせていただきたい」という非常に控えめな言い方なのか、ということは調整する必要があると思いますね。</p> <p>西尾委員、お願いします。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>4ページの学校のところなんですけど、全体的に「減らす、減らす」というトーンが強いなと感じます。「削減」を「適正化」に変えた方がよいというご指摘もありましたけれども、実際、学校というのは今でも余っている教室が出てきていますし、子どもがもっと減っていけばどんどん余っていきますが、減らすというイメージとも違う捉え方もできるのかなと思います。</p> <p>空いてきた教室を他の用途に活用していく側面があったりとか、学校施設全体を公共施設の複合化に有効活用したりとか、そういう面もあると思います。今ご指摘あった最後のところに文部科学省の報告書を引き合いに出していただいておりますけれども、この中で「コミュニティの核」という表現が出てきているんですね。恐らく「コミュニティの核」として学校を活用していくというのが、龍ヶ崎市が「新たなカタチ」と言っているものの具体例として、一番分かりやすいのではないかなと思うんですね。</p> <p>学校を基点に、周辺の公共施設を複合化して、一つの複合施設としてコミュニティの核となった時に、それが新たなコミュニティ政策の一つに繋がっていくでしょう。また、「そういうものをみんなで作り上げていくんだ」ということを例示すると、ここで目指しているものが一番伝わりやすい気がします。ここは内容をもう少し強く打ち出して、場合によっては、具体的なイメージを例示しながら書いていくといいのかなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>倉斗副委員長から見て、ご報告いただいた事例の中で、本文の方に引っ張ってくるのと何かありますか。お勧め、エッセンスを仮に数行で入れるとしたら多分それが入ると何となく、イメージは付きやすいかなという気がするのですが。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>13ページの宮代町の笠原小学校の余裕教室を福祉関連施設に転用している例は、学校を残しながら他の施設が入ってきてという点では、この文脈だといいのかなという気はしています。他には、原宿中学校、これは廃校になって完全に学校でなくなったハコを使っているという事例があります。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ありがとうございます。笠原小の例は、岡田委員は詳しく調べたことがありましたよね。市民とのコミュニケーションについて、宮代に関連して引っ張れるようであれば、一つ分かりやすい例になるのかなと思います。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>宮代は習志野とは状況が異なるので、よく分かりません。芦原は行った者の感想によると「校長先生の意気込みが前面に出ている学校なので、施設を維持するためには、両輪として維持する人のモチベーション維持を確実にやっていかないと、駄目になってしまう」と言っていました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>市と教育委員会と学校を文中に入れていच्छやるのはそんな意味ですか。</p>
<b>松尾委員</b>	<p>多分事務局では地域コミュニティの核になる施設として、学校を利用できないかと考えていると思います。特に龍ヶ崎市では、単位自治会の組織の活動だけでは、これから色々不都合が出るだろうということで、主に小学校区を単位とするコミュニティセンターの単位自治会を中心とした連合組織を作って、そちらでコミュニティ活動を活発化しようという取り組みをしています。そういう取り組みをやっていて、やはり活動拠点がコミュニティセンターだけでは足りないのに一方で、コミュニティセンターの隣にある小学校は意外と余裕があるというミスマッチが随所にあります。それだったら、「やっぱり学校の活用が鍵だよな」ということと、元々学校って学習というよりは、先程、倉斗副委員長が仰ったように、「人を育むところだからこそ活用していくべきだ」と。そうすると「組織の</p>

	壁だったり、色々な規制だったりというのがあから、それを打ち破っていかないとやっぱり駄目だよ」という思いが随所に出てきているのだと思います。
<b>藏田委員長</b>	<p>提言ですので、その辺を素直に書くというのも手かもしれませんね。事務局から言い出すと大変なことになるかもしれませんけれども。そのようなことを目指していくのが適切ではないか、ということを提言として市長に上げさせていただく。その辺は事例になりそうな場所なり、地域があれば、そこを一つモデルとして仕掛けていく。倉斗副委員長が仰ったように、需要というか、利用者の声を先に押さえておいてからものを動かすと、ものすごく効果的ですよね。それは何故かということ、市民の人が言えば、議員さんも市の職員の方も、また地域の方自身が地域の中で合意形成をして味方になってくださるからです。その辺を上手くミスマッチを梃子にして、再配置というか「新しいカタチ」の作り方も含めてデザインしていくみたいなことに、取り組まれたら非常にいいのかなと思います。そういう事例があれば「そんなふうにやればいいのかな」と、職員の方も地域の方もいろんな方が納得されると思います。ある程度戦略をもって、そういう取り組みを進めていくのはありかなという感じがします。</p> <p>そうです、トップランナーなんですよ。志村委員は「大変ですよ」という仰り方をしましたが、それでもやる価値があるんじゃないですか。</p> <p>龍ヶ崎市民が「日本一幸せになりたい」と本気で思えば、トップランナーでなければいけないわけですよ。そういう気概を持つことをここで宣言することが、すごく重要なことであって、「トップランナーじゃなくていいです、フォロアーでいいです」と思った瞬間に、競争を勝ち抜くやる気も出てこない。そういう思いをもって地域の人たちとか職員の方、色々な方々にお話をしていくということがすごく重要で、そのトップランナーであろうと本気で思っていけばこそ、どこまで行けるかはその時の運ですけど、ある程度のところまでは登っていけると思います。その辺をまさに、皆さんのご協力をいただいて集めていけば、一番いいのかなと思いました。</p> <p>他にございますか。はい、どうぞ、西尾委員。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>5ページの5番の行政の組織体制のところなんですけど、「専任組織の設置が大事だ」と書いてあって、「組織間の連携も重要だよ」と後に書いてあるんですけども、専任組織の設置に関連して、もう少し具体的にポイントかなということをお願いします。この取り組みは役所でいうと三つ位の分野に跨っている取り組みで、一つは施設の配置に関わる企画部門、或いは行革部門かもしれません。それから二つ目が技術的な建築部門、それから三つ目が財政、お金ですね。この企画と建築と財政の三つの部門が上手く連携してやっていく。もしくは、三つの連携機能をもった専任組織を作っていく、そこが重要なポイントになっていくのかなと思います。</p> <p>それともう一つ組織の関連でいくと、重要になるのはトップマネジメントですね。その二点を組織の体制について申し上げたいと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	多分それに加えて教育委員会や学校も含めて、というようなことがあるかもしれませんね。組織のあり方について、岡田委員いかがですか。
<b>岡田委員</b>	組織は中の話ですから、提言書ではいいんじゃないのかなとは思いますが。
<b>藏田委員長</b>	<p>そういうことを中ではなかなか言い出しづらいと思うので、なるべく「こんなことではないかな」という目安になるような玉は投げておいた方が後々検討しやすいのではないのでしょうか。最終的にどうするかは、色々事情があると思いますけど。</p> <p>はい、どうぞ、岡田委員。</p>
<b>岡田委員</b>	体制でいくと、この三市は割と似たようなところからアプローチをしていますFMから入っているところはアプローチが異なりまして、例えば、武蔵野市さん

	<p>は、建築の部署が財政に広まっていて、さらに今、企画に広まっていていいます。うちは、行政改革の視点から入って行って、財政に広まり、さらに建築の方に広まっていていいます。三市だけではなくて色々な市の事例から組織のあり方をコラム的に抜き出してあげると「じゃあ、龍ヶ崎市はどれにする？」みたいな議論ができやすいかなと思いました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ちなみにFMだと武蔵野市の他にどこかありますか。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>佐倉市さんは、建築の方から入って行って、財政、企画の方に広まっている感じだと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>入れられるものは参考までに入れていくということによろしいのでしょうか。この提言書で大事なのは「他の部署に広まっていかせるにはどうしたらいいか」ということだと思います。例えば習志野ではそういうことをボトムアップで作られてきたという気がしますが、外から少しワンプッシュ、ツープッシュするとすれば、どんな言い方をしたらいいのでしょうか。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>まず、習志野市は協議会からの提言書で「専任組織が必要だ」とぼつちりと書いてあったのです。当時習志野は旧耐震の学校がほとんどで、耐震が全然進んでいないということがあって、これを進めるためには提言書に基づいて技術者を集めないといけないとか、いろんなところに付随したものがあって「組織再編をやる」となった感じですね。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ここで今書かれているような専任組織のことで、具体的な組織の連携の二つのパターンを参考に示しておいて、あとはそれを材料に考えてもらえば、なるようになっていくという感じですか。</p> <p>他に第2章も含めてございましたら、お願いします。</p> <p>先ほどの6のところのPDCAの数値目標のところは、「数値目標を掲げていくことが必要だ」ということ自体が書かれていないので、少なくともそれは書き込んだ方がいいでしょう。その分の設定については詳細な検討を踏まえてということでしょうけれど、チェックをするに当たって数字がないとチェックのしようがない、何のためにチェックしているんだということになるので、そこは、多分入れる必要があります。</p> <p>2章の4のところの「市民との意見交換」の書き方をどうしていくのか。提言について、どこまで書き込むのかということがあるかもしれません。</p> <p>西尾委員、どうぞ。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>「市民との意見交換」のところですけども、二つに分けて考えた方がいいと思います。「行動計画の策定に関して市民とやっていきますよ」という側面と、「計画を実際に回していく時に色々な新しいカタチを作っていく活動が生まれてくるわけですけども、そこを市民ときちんと一緒にやっていくんですよ」という側面があります。計画策定に関わる市民参画と市民協働、施設の再編成に関わる市民参画と市民協働、そこをきちんとして書き分けて、「両方大事ですよ」ということを言う必要があるのかなと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>検討のフローを会議で出したかと思いますが、そういうのは出すのは差し障りがありますか。方向性としてある程度、具体的に意見交換とかもフローなりで見せてみて、提案ベースで示しておく。状況によってでしょうけれども、分かりやすくなるかなと思います。</p>
<b>事務局</b>	<p>前回出したようなものを、提案ベースで出していきたいと思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。どうぞ。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>読んでいて若干もやもや感が残ったのが8ページのPDCAサイクルのところですか。「チェックが重要」と書いてあったのですが、果たしてチェックが最重要なのか、皆さんのご意見を伺いたいなと思っているのですけれども。</p>

<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>いかがでしょうか。記憶では「行政経営の中でPDCAをやる時に一番重要なのはチェックだ」と申し上げた気がします。どういうことかという、「いろんな事情でできませんでした」と理由を作るのは非常に行政の方は得意なんですけど、なかなかそれでは進まない。マネジメントについて、民間と行政との一番の違いは結果に対するこだわりというか、評価をしっかりとして何とかして結果を残していくべく、努力をしていく切迫度かなと思います。そういう意味では目標をしっかり立てて、立てた目標がずれ込んでいくことも当然ありますが、それを何とかちゃんと合わせていく、「進捗管理のマネジメントが重要だ」ということは申し上げたかなと思います。しかし、それが一番重要かと言われると重要でもないような気がします。</p> <p>そこを踏まえてのアクション、改善がより重要な気がします。あまり、優劣はないような気がします。</p>
<p><b>倉斗副委員長</b></p>	<p>詳しくないので一番重要かどうか分からないんですけども、「今まで結構疎かになりがちだったのがチェックだ」という意味では、「疎かにしないぞ」という意思を示すということかなと受け取って読みました。内部でやっていることだと「やっているから」ということで、何とかなっちゃうと思うのですが、チェック要するに審査とかみたいなのが定期的にあるということを示しておく、何とかそこまで進めないといけないと思うので、そういう意味での重要性は高いのかなと思います。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>西尾委員、お願いします。</p>
<p><b>西尾委員</b></p>	<p>チェックそのものが大事というよりも、その後のアクションが特に大事と感じています。さいたま市の場合、目標の立て方はマクロ的に色々な推計をしたりして「ここに持ってきましょう」ということをして、個別の行動計画はもちろん個別にミクロで積み上げていくのですが、その刷り合わせというのはどうしても必要になってきます。1年やってみてどこまでいったのか、それに対して目標に向かって今の通りやっていけばいいのか、やり方を見直さなければいけないのか、場合によっては計画自体を毎年見直していくということもあり得ると思います。そういうダイナミックな捉え方をしないといけない分野かなと思いますので、その点を強調した方がいいかなという気はします。</p> <p>また、これは、さいたま市もまさに直面している課題なのですが、この提言の中で、あまり複合化という言葉が出てきていないかなと思います。多分、「新しいカタチ」の具体的なものというのは、複合化、複合施設というものがまず想定されるので、複合化という概念を理念的に打ち出した方がいいかなと思います。実際、行動計画を作って、PDCAで回していく中で、複合化の検討ということが上手く実現できていく計画になっているかということも、重要なポイントになるのかなと思います。</p> <p>拝見している限りだと、施設ごとに評価をして、この施設を再編成の対象にしていくというような個別施設での再編の取り組みが中心になっているような気がします。それがいかに複合施設、複合化としての検討に結びついていくかというところを計画上工夫していかなくてはいけないかなと思っています。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>その辺は多分第2章の「2 行動計画の登載時期」の書き方にも関連してきます。複合化するという事は挙がってくる施設と併せて何か組み合わせることになるのですが、その組み合わせる施設は、必ずしも大規模改修の時期が到来していない施設もあるでしょう。一応ここでは控えめに書かれていますが、積極的に考えていくように、この登載の時期なり、どっかでワンクッション、「そういうことを考えるプロセスを入れるべきだ」と書いた方がいいのかもしれない。これだとやはり個別の各論に入ってしまったって、なかなか出口が見出だせないということになると思うので、登載時期のところにもそのことを入れる必要があるでしょう。</p>

	はい、倉斗副委員長、お願いします。
<b>倉斗副委員長</b>	<p>今、委員長がおっしゃられたところが、前回も私が引がかかっていたところで。大規模改修の時期とか更新の時期に考えると、その時期が来たものしか見ていない感じがして「その時に近くにあるけどあまり稼動していない施設を取り込む」というイメージが膨らまないのでは、という気がしていました。そういう時期をきっかけに、コミュニティであったり地域の全施設についてであったり一度俯瞰してみる仕組みも必要なのかなと思っています。</p> <p>また、7ページの「4 市民との意見交換」のところ、意見交換は意見交換かもしれないんですけども、先程志村委員が仰っていたように、ことあるごとに「目標は何だったのか」ということを再確認する。それがチェックになるのかもしれませんが。市民とも「ここだったよね」、「こういうものにしていきたくったんだよね」と、目標を確認しながら情報を繰り返し、繰り返し出していくということも、一文入れてもいいのかなと思いました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、ありがとうございます。そういうコミュニケーションプランを入れてもいいかもしれませんね。パブリックコメントは一応、手続きとしては聞いているものの、実質的な意味での市民との意見交換や協働とは程遠いものになってしまいます。ある程度、コミュニティ単位で再編成、再配置を考えていくのであれば地域でそういうことを考えられる集まりを、それぞれ作っていく。「こういう課題があるからどうですか？」とその問題が来る前にも、定例的に地域が集まれる環境を予め作っておく、情報を共有しておくということも、計画的に仕込んでいくこともあるかもしれないですね。</p> <p>具体的な市民との対話とかタイミングとかやり方とか本当に肝だと思うので、「市民と協働しましょう、意見交換しましょう」というのは誰も反対しないと思いますけど、その対象としてどんなふうに地域の人たちを引っ張ってくるのかも含め、色々な工夫があるのではないかなと思います。</p> <p>岡田委員、地域に入ってどうですか。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>地域性もあるかもしれないのですが、総論に反対する人は1%もない状況です。ただ、総論に興味を持つ人も非常に少ないと思います。各論に入った途端に盛り上がってきて、賛成反対入り乱れて、非常に難しくて混乱しているところです。ただ「総論を飛ばしていきなり各論に入ることはない」ということだけは分かっています。なので、ここは仰る通り、固めておかななくてはいけないとは思いますが。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>そのところにポイントがあって、行ったり来たりだと思うんですよ、市民と協働していくというのは。行政の中では手続き的には前に前に進んで行くことが前提で、一度話をしたことについては「これは決まったもの」としてしまいがちですが、ある程度理解なり条件が揃った人には通じますけど、ほとんどの市民というか、地域の方々の多くはそういう能力はあっても、行政とのコミュニケーションの中でそういうことにはあまり慣れていない。その辺は上手くダイナミックに柔軟にというんですかね、組み立てていけるようなコミュニケーションの仕方を作っていくというのが、多分ポイントのような気がします。</p> <p>根本先生はシンポジウムで「総論について徹底的に議論して賛成したら各論には反対できない」と仰っていましたけれども、「総論について徹底的に議論して賛成になる、なんていうことに付き合う市民はほとんどいない」というのも現実だと思います。だから、多少具体的に「再編成する施設があるね」というようなことを考えながら、「でもそれは、元々どうだったんだろうね」みたいなことを行政の人だけが言うのではなくて、市民の人たちがちゃんと自分たちの言葉で語れるようにならないと、なかなかいい方向に進んで行かないのかなと感じます。具体論の中で興味をもった人たちに、「実は元々どういうことなんだろうね」と、改めてタイミングを捉えて問いかけていく、考えていくみたいなコミュニケーション</p>

	<p>ンのやり方をされると、すごくいいのかなと思います。</p> <p>入り口のところで「総論で議論をしましょう」と言っても、市民はどんなに能力があってもなかなか難しい。具体的なことを考えて、でも「具体的な小学校の活用は龍ヶ崎市の未来にどんな役に立っていくのか」みたいなことを、ゆっくり語るようなコミュニケーションをしていくやり方をされるといいのではないかな現場ではそういうことをやっていますね、そうしないとなかなかついて来ない、なかなか信頼関係ができないです。関係ができれば、またそこに戻っていくこともできるような気がします。</p> <p>倉斗副委員長はどうですか。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>先程の志村委員の言葉を借りると、総論というのは全市的で将来的で話をしているけれども、地域の方というのは地域的で現代的な話をされるといのがあったと思います。やっぱり具体例の施設が出てきた時って具体例なので、この場所のことで今の状態で語ってしまうし、我々自身もそうになってしまう気がします。けれど、そもそも総論というのは全市的で将来的なものだったんたというところにたびたび帰ってあげないと、マネジメントしている我々も流されていってしまいそうな気もしています。その対比がある中で現在というのも将来に続く時間軸の一部であって、全体で見た時のどこの位置づけの話を今、しているかというのを、時々引いて見るみたいなことを意識的にやるというのが、きっといいんだらうなと思っていました。そういった形で進めていきたいと思いますというのが、文の中に入れてきてもいいのかなという気はします。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>はい、各論についてはワークショップなり何なりで検討して、その後、場所を移して「実は、さ」みたいな総論のところのコミュニケーションが行ったりきたりする。市民にも分かっていたく、職員の方も気付くことが結構あったりするるので、行ったり来たりをどういう形で書くかということは色々あるのでしょうか固定概念に捉われずに地域と上手く対応しながら、地域にとってもハッピーだし全市にとってもハッピーだという、その刷り合わせのところを上手く調整する構えを持つところは書いた方がいいでしょう。また、そんなことができる職員の力量も試されるでしょう。</p> <p>西尾委員はいかがですか。</p>
<b>西尾委員</b>	<p>私たちは志村委員や岡田委員に比べると、市民協働の経験が圧倒的に少ないと思いますので、たまたま恵まれているのかもしれないですけども、昨年、今年とワークショップをやっている中で「必ずしも地元の方が各論反対、地域エゴの意見しか言わない、ということではないな」と感じています。</p> <p>地域の参加者の人たちでも「こんな豪華な施設はいらないよね」とか、「私たち、本当は有料でやってもいいと思っているんだよ」とか、そういう意見を仰る方がいらっしゃるので、あまり地元の方は各論反対で、総論賛成を徹底しなくてはいけないとか、色付けを明確にしない方がいいのかなと感じます。地域にも総論に理解を示して下さる方が必ずいますので、そういう人が意見を言い易い雰囲気を作ることを大事にしながら、地域での合意を形成していく視点があってもいいのかなとちょっと感じました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか、今のコミュニケーションのところを、はい、岡田委員。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>確かに言われてみると、総論と各論は無意識のうちに我々も行ったり来たりしていて、その通りだと思うんです。また、地域＝各論反対、行政＝総論という位置づけも必ずしもそうではない。アンケートを取ってみて面白かったのは、総論の賛成は9割、8割なんですよね。「反対です」という人は本当に3%とか、その程度ですよ。このデータというのは、この前各論の話をした時に取ったアンケートだったので、今ここで総論賛成、各論反対の議論がずっと行われているんですけども、必ずしもそうではないなというのは私も感じるところです。</p>

	<p>ただ、声として大きな声で入ってくるので、そっちを向いてしまうというのが行政の悲しい性かなと思います。それはやりながら考えるところがあるのかな、と思います。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>倉斗副委員長、どうぞ。</p>
<b>倉斗副委員長</b>	<p>そういう意味では本当に仰る通りで、反対の意見だからこそ「ここで言うてやる」という感じが出てくるんですけど、賛成の人は「うん、うん」と聞いているから、あまり声に出して言うてくれないところもあります。任意で人を集めて話し合いましたよとなると、「ここで言うてやろう」という人の参加率が高い気がします。市民との情報共有、意見交換というのは、どういう形でやっていくかというの少し考えないといけない。インターネットでも意見を募ると全然違う意見が出たというように、「幅広い世代、色々な属性の市民から意見が取れるような仕組みを考えていきます」みたいなことが入っていてもいいような気はしました。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>そういう意味では、無作為抽出や、自治会や関係の団体の役員の方では無い人たちと、いかに一緒にやるのかというのはすごく重要な仕掛け方かなと思います。既成概念に囚われずにやっていくためには、既成概念に囚われた人たちだけやったのでは、なかなかその畏から抜け出せないで、そういう意味では職員の方の意識改革もそうですし、市民、地域の方々にも新しいスターが現れるような仕掛け、段取りをする必要があるのかな。当然、地域に入っていけば、それぞれ関係する自治会やこれまで関わってきた方がこれまで通り関わりますけど、敢てそこを動かしていくような仕掛けを考えていくのかなと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。見直して、言い漏らしていることがありましたら。はい、岡田委員。</p>
<b>岡田委員</b>	<p>細かい話なんですけど、流通経済大学さんは、名指して入れていいのかどうか「お役に立てません」みたいな話にならなければいいんですけど。その辺は地元の感覚も含めてどんな感じでしょうか。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>これって何か想定あるんですか。流経大の例えば先生なり、研究室なり、グループなりとか。</p>
<b>事務局</b>	<p>はい、具体的には特段はございません。</p>
<b>藏田委員長</b>	<p>それに関してちょっと思ったのは、チェックということの重要性を考えた時に流経大に専門の方、もしくはそういうことを担える方がいらっしやればそれでいいと思うんですけど、もしそういうことが無いとすれば、「チェックの部分を軽く外に出せばできる」ということではないんじゃないかなと思っています。</p> <p>「外部からチェックをもらうという形式的なもので、そのチェックが足りるんだ」ということであれば、それでいいですけど、本当にチェックをし改善していくためのチェックは、いろんな視野を投じてやらないと、本当に必要なチェックにはならないと思います。流経大に何らかの想定がないとすれば「肩書きとか組織とかではなくて、その中身としてのチェックを専門のところとしっかり連携してやる」と位置づけておいた方がいいのかなと思います。極端なことをいうと今のこの専門家の方々に入っただいて、チェックしていただいたら、ものすごくいいチェックになるでしょう。実質的にどう実を取っていくのかなというところが重要なという気がします。</p> <p>その辺は色々な方法があると思います。流経大さんとは、龍・流連携も含めて色々やっているところでしょうから、地域密着というのであれば、そこを立てつつ、そこに一枚、二枚戦略を足していくということもあるかもしれませんし、一番やりやすい方法で、一番成果が出る方法をお願いします。</p> <p>岡田委員、何かございますか。</p>



<p><b>岡田委員</b></p>	<p>地元ありきで行くのはどうかと思います。市民は地元なので地元ありきで、市民と共にやっていくというのは、あって然るべきなんです、この分野に関しては専門分野でその研究内容がどうであるかで判断していかなくてはいけない。例えば、財政だとか行革だとか、全部網羅するというのはこの業界ではないのである部分に関して意見を聞いて、行政や市民がそれを活かして横に広げていくというやり方はありだと思うんです。けれども、「果たしてそこに専門性が活かせるものがあるのか、ないのかも分からない段階で市内に」というのはちょっと危険なので、ここはやっぱり書き方を変えた方がいいと思います。</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>ご検討くださいということです。他はいかがでしょうか。第2章まで、最後の方までたどり着いたような気がします。第3章のところは、最初に西尾委員からご指摘いただいたような形でまとめとして要約する方向でよろしいですかね。そうしていただいて、〇（マル）になっているところについては、目的設定や「新しいカタチ」とはなんぞや、というところから入って、道具建ての部分の一つ一項目位でまとめていくという流れかなと思いました。</p> <p>この資料編については、議事録その他も入れられたらどうかということで、元々公開しているものもあるので、それを差し支えない範囲で引用するということですね。</p> <p>ざっと見直すと、ものすごい数の修正箇所がありまして、果たして後2週間でまとまるのかなという大変不安はございますけれども、トップランナーたるにはこれを何とか動かすしかない、ということで頑張っていきたいと思います。</p> <p>志村委員も席を立ってしまいましたけど、必要な情報とかパーツ的なところを頂くようなことにご協力いただくかなと思います。修正したものを、メールで確認させていただくと、ワンクッション入りそうな感じではありますね。</p> <p>これは、言っておきたいということがございましたらいかがでしょうか。よろしいですか。では、議論の方は特段意見がないので、議題については終了させていただきます。後は事務局と委員長と必死にやりますのでよろしくお願いします。</p> <p>後は、事務局の方でよろしくお願いします。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>はい、ありがとうございました。色々ご意見いただきましたので、こちらの方修正しまして、皆様方に送らせていただきたいと思います。</p> <p>最後に政策推進部長から、ご挨拶がございます。</p>
<p><b>直井部長</b></p>	<p>－ 部長挨拶 －</p>
<p><b>藏田委員長</b></p>	<p>以上で有識者会議の審議内容は全て終了いたしました。会議の議長はおろさせていただきます。この後は事務局にてお願いいたします。</p>
<p><b>事務局</b></p>	<p>以上をもちまして、第5回有識者会議を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
	<p>平成 年 月 日</p> <p>会 長 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p> <p>会議録署名人 _____</p>